

● ヨツモンカメノコハムシの観察

サツマイモ畑でヨツモンカメノコハムシの成虫を見つけました。
カメノコハムシのなかまは、甲羅を背負ったカメのような姿をしたハムシ科の昆虫です。

ヨツモンカメノコハムシは、成虫、幼虫ともにヒルガオ科のサツマイモなどの葉を食べる害虫として知られています。
熱帯アジアを中心に分布していて、1990 年ころまでは日本では沖縄にのみ生息していました。その後、1999 年以降に九州各地で見つかり、2008 年には静岡県富士川町、2017 年に神奈川県厚木市など、そして 2018 年に東京町田市で見つかっています。
さらに 2020 年代に入って、埼玉県や千葉県南部で生息が確認されています。
我孫子市のある千葉県北西部で、2024 年 5 月に初確認したとするネット情報もあるので、岡発戸に侵入したのはつい最近かもしれません。

越冬した成虫が 5 月ごろ、サツマイモ（サツマイモがなければ外来種のノアサガオなどのヒルガオ科植物）の葉の裏に産卵し、その上に糞を塗ります。幼虫や蛹も背面を脱皮殻や糞で覆います。葉上で蛹化します。年 3 回発生すると考えられ、成虫で越冬します。

（鈴木信夫）



ヨツモンカメノコハムシの幼虫の食痕(マメアサガオ)



ヨツモンカメノコハムシの成虫
平たい身体で、甲羅をかぶったような姿



ヨツモンカメノコハムシの幼虫。腹部の先端付近に自分の脱皮殻を重ねて糞を塗り、それを背中の上にかざす